

会議結果報告書

1	会議名	戸別収集実験事業に関する説明会（茅ヶ崎南地区）
2	日時	令和7年2月8日（土）10:00～11:00
3	場所	高砂コミュニティセンター
4	出席者	（資源循環課）森岡課長補佐、八幡主事 （環境事業センター）富田所長 （茅ヶ崎南地区）参加人数：54人
5	内容	<p>資料に基づき、戸別収集実験事業に関する説明会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 収集時間は、いつ頃確定するか。 → 4月上旬においては収集時間が前後してしまう恐れがあるが、4月中旬以降には収集時間が一定になると見込んでいる。 ● 幸町は駅に近いので、他の地区よりも共同住宅がたくさんある印象がある。共同住宅の排出場所について、市内の不動産事業者の集まりがあると思うため、不動産事業者に対する説明会を開いて、入居者の適正なごみ出しの徹底を図っていただきたい。 → ご意見として賜る。 ● 戸別収集の社会実験を行う前に、ごみに関する問題について、もっとやるべきことがあると思う。戸別収集の社会実験を始めてしまえば、燃やせるごみを対象とした戸別収集を全市域で実施するのに、毎年約4億円かかってしまう。ステーションを起因とする諸問題が起きている地域の方々と、もっと話し合いをして問題を解決すべきだと思う。 → ステーションを起因とする諸問題が起きた場合、市の職員も入って問題解決に向けて取り組みを進めている。しかし、茅ヶ崎駅の南側に面する地域においては、事業者の不適正なごみ出しや通りすがりのポイ捨てなどの問題が常態化してしまっており、地域の方々と話し合いをしても問題が解決されない状況がある。問題解決に向けた一つの取り組みとして、戸別収集の社会実験を行いたいと考えている。 ● 戸別収集の実施を検討する前に、徹底的に問題解決に向けた取り組みを行なったか。話し合いが行われていれば、同じ地域に住んでいる人間同士で、問題は解決できると信じている。 → 戸別収集の検討をする一方で、ステーション収集を維持する取り組みもあわせて進めている。その一つとして、「集積場所設置基準の柔軟な運用」を進めており、ごみ集積場所は8世帯に1つ、資源物は24世帯に1つ集積場所を設置するという基準はあるが、従来の基準で設置することができない場合は、市の職員を含めて地域の方々と話し合いをし、従来の基準に満たない場合でも集積場所を設置している事例がある。このような取り組みも進めていく一方で、並行して戸別収集の検討を行い、ステーションを起因とする諸問題の解決を目指していきたいと考えている。

● ステーションで問題が起きているところだけで戸別収集を行なっていただきたい。戸別収集を行うためには、お金がかかる。お金は無尽蔵にあるわけではないため、お金をかけずに問題解決する方法を考える必要がある。

→ ご意見として賜る。

● 指定ごみ袋は、40ℓが最大の大きさであるが、一般に流通しているごみ袋は、70ℓや90ℓがある。サイズの展開を増やすことはできないか。

→ 令和4年度からごみ有料化を開始するにあたり、指定ごみ袋制を採用し、指定ごみ袋のサイズを4種類作製している。この4種類は、指定ごみ袋制を採用している先行自治体が導入しているサイズの上位4種類である。昨年実施したごみ有料化及び戸別収集に関するアンケート調査などからも現行のサイズ以外のサイズを求める声をいただいているため、今後のごみ有料化制度の見直しの中で検討していく。

● 事業者が出すごみにおいては排出制限があるようだが、家庭から出るごみにおいては、排出制限はあるか。

→ 家庭から出るごみにおいては、排出制限はない。

● 落ち葉等は透明・半透明の袋に入れて出せるが、自分で管理すればボックス等に入れなくても良いか。

→ 必ずしも鳥獣対策をしていただく必要はないが、収集してもよいものであると分かるように出していただきたい。

● 事業者が出せるごみは、40ℓまでか。

→ そのとおりである。

● 「全市域で燃やせるごみを対象に戸別収集を実施するためには、パッカー車 55 台・軽トラック 6 台、またそれらに応じた人員や費用が必要となる。」とのことだが、現状は車両台数何台で、燃やせるごみの収集業務を行なっているか。

→ 燃やせるごみの収集業務は、パッカー車 30 台で行なっている。現状、パッカー車で収集ができるような場所にごみ集積場所を設置していただいているため、軽トラックは使用していない。

● ごみ集積場所に掲示する看板が届いたが、アパートやマンション内の集積場所にも掲示する場合は、了承を得て掲示する必要があるか。

→ トラブルになりかねないため、了承を得てから掲示していただくようお願いしたい。

● 届いたごみ集積場所に掲示する看板の内容が「燃やせるごみの集積場所が一時的に使用できなくなります」というものであるが、アパートやマンション内の集積場所に掲示してしまうと、誤った認識を持たれてしまうのではないか。

- アパートやマンション内の集積場所を利用する戸建て住宅の方もいると聞いているため、看板を掲示することができれば、掲示にご協力をお願いしたい。市の取り組みの周知にも繋げることができる。
- 自治会長宛に届いたごみ集積場所へ看板を掲示する依頼文に、燃やせるごみの集積場所のプロット地図が配布されると書かれているが、届いた看板の中にはなかった。配布されないか。
- 燃やせるごみの集積場所のプロット地図は、自治会長へ送付した依頼文と合わせて郵送しているため、自治会長へ確認していただきたい。
- 令和6年度から令和8年度までのスケジュールが示されているが、実験期間後の令和8年4月に、燃やせるごみのステーションを再度設置しなければならないか。
- 令和8年度以降の燃やせるごみの収集方法は、実験の検証結果によって決定する。検証結果によっては、ステーションを再度設置していただく可能性がある。
- 令和7年度の実験期間中の中間評価などで、戸別収集による効果が確認できた場合、令和8年度も継続して戸別収集を実施する可能性はあるか。
- 可能性はある。令和8年度以降の燃やせるごみの出し方については、スムーズに移行できるように配慮して案内をしていく。
- 現在ステーションに設置しているネットボックスを1年間どこかに保管しておかなければならないか。
- 燃やせるごみだけを収集している集積場所は一時的に廃止となるが、燃やせないごみや資源物も収集している集積場所であれば、使用することができる。必要に応じて、その他の集積場所で転用していただくなど対応をしていただきたい。
- 使用しないネットボックスがあれば、自治会等で保管場所を決めて格納しておき、令和8年度以降、戸別収集を実施しないとなった場合に、再度燃やせるごみの集積場所を設置するという対応をとれば良いか。
- そのように対応していただきたい。
- 「ネットやポリバケツなどの配布や購入費の補助は行いません。」と書いてあるが、令和8年度以降も戸別収集を継続して実施しない場合もあるのであれば、ネットやポリバケツなどを用意することは、かなりの出費になる。NGな出し方であるブルーシートなどやダンボールを利用して、「これはごみです。」という貼り紙をしても収集してもらえないか。
- ごみであることが分かれば収集することはできるが、ブルーシートなどやダンボールにおいては、収集後の取り扱いに課題を感じ、NGな出し方とさせていただいている。今回の実験においては、まずはご自宅にあるもので代用していただくなどご対応をお願いしたい。

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">● 実験期間中において、資源物も収集している集積場所においては、継続して利用することになる。このような集積場所に掲示する看板を用意していただきたい。→ 個別に環境事業センター業務担当にご相談いただければ、ご要望に応じた看板を作成するため、ご連絡いただきたい。 |
|--|--|

以上